



明日をひらく都市 横浜

横浜市中期計画 2022-2025

概要版

City of YOKOHAMA

I 中期計画の特徴

1 | 計画策定に当たっての基本認識

我が国最大の人口を抱える基礎自治体として、これまで発展を続けてきた本市も、今後いよいよ人口減少局面を迎え、生産年齢人口の減少、少子高齢化が更に進むと想定されています。

これに伴い、社会のあらゆる分野で担い手が不足することによる、地域コミュニティや市内経済の活力低下、市税収入の減少、社会保障経費の増加、都市インフラの老朽化の進行などに伴う、市民サービスの維持等の課題が見込まれます。

一方、地震や激甚化する風水害などの自然災害や、新型コロナウイルス感染症など、市民の安全・安心を脅かす諸課題への迅速な対応はもちろん、脱炭素などの地球温暖化対策、社会のデジタル化など、今日的な課題の解決も求められています。

本市が、こうした変化や課題に着実に対応していくためには、統計データ等から将来を想定し、そこから見える課題を先取りして、その解決に向けた最適な方策を選択していく必要があります。

持続可能であることはもちろん、平和や人権の尊重を市政運営の基調としながら、日本・世界をけん引する都市として挑戦し続けることができるように、中期計画を策定します。

2 | 計画期間

2022（令和4）年度から2025（令和7）年度までの4年間の計画とします。

3 | 計画の構成

社会の変化が激しい中では、先を見通したビジョンを描くことは困難なため、現在までの経過や統計データ等の中で、今後更に顕在化・深刻化しそうな課題を把握し、それが解決された姿を「共にめざす都市像」として描いていきます。

市民の皆様が御自身に置き換えて、様々な暮らしのイメージができるように、いくつかの例で示しています。

そして、その実現に向けて、基本戦略を掲げ、目指す中期的な方向性・姿勢を明確にした上で、9つの中長期的な戦略を定めるとともに、戦略を踏まえて計画期間の4年間に重点的に取り組む38の政策をとりまとめています。

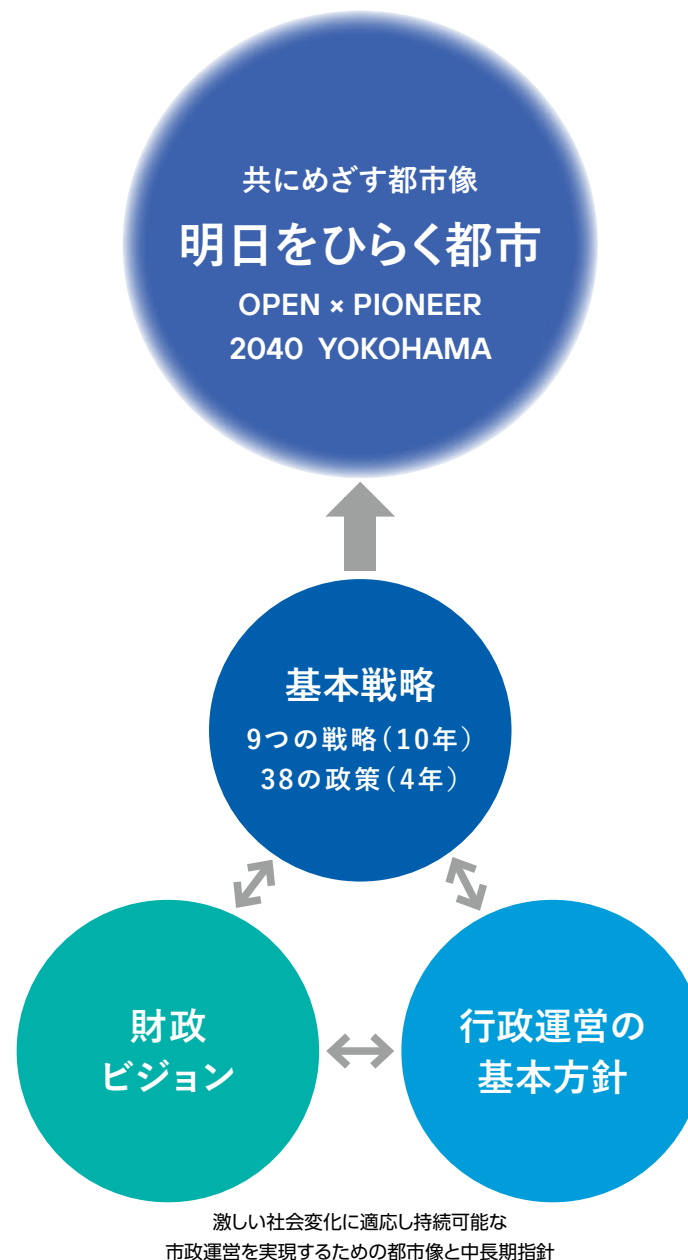
4 | 財政ビジョン・行政運営の基本方針との関係

社会の変化が激しい中で、多様化・複雑化する課題に着実に対応していくためには、将来を想定し、そこから見える課題を先取りして、解決に向けた最適な方策を選択していく必要があります。

そのため、子どもたちや将来の市民に対して、横浜の豊かな未来をつないでいくための道標となる「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン（以下「財政ビジョン」という。）」を策定しました。

財政ビジョンで示した収支不足解消に向けて、「中期計画」では、施策の方向性と達成状況を測る指標を示し、毎年の予算編成の中で、施策指標の達成に効果的な事業を議論し、計上していきます。あわせて、「行政運営の基本方針」を踏まえた、「創造・転換」を理念とする歳出改革を進める仕組みの構築なども進めています。

政策・財政・行政を連動させながら、「必要な施策の推進と財政の健全性の維持」を目指します。



現在と未来の両視点で、都市の将来像と施策を捉える。
行政・財政を変革させながら、最適な事業を追求できるスキームへ。

特徴 1

「共にめざす都市像」、
「基本戦略」、戦略、
「政策－施策－事業」
の体系化

2040年頃の課題が解決した姿を描き、市民・事業者の皆様と共有し、市が目指す長期的・中期的な方向性を示しながら具体施策とつながりを持たせる。

特徴 2

財政ビジョン及び
行政運営の基本方針を踏まえ
計画で予算を固定せず
効果的な事業を
徹底的に追求

計画では、施策の方向性・指標までを固定する。これまでのやり方を変革させ、各年度の予算編成の中で、最も施策の達成に効果的な事業を議論し追求する。

Ⅱ 共にめざす都市像

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
2040 YOKOHAMA



社会の変化が早く、先を見通しにくい時代になっている今こそ、都市や暮らしの在り方をもう一度、皆さんと共有し直す必要があります。私たちのまち横浜は、150年以上前から先人たちが未来を切り拓いてきた、挑戦の地です。ありたい姿を追求し、皆さんと共に力をあわせて、つくってきた今の横浜。これから、私たちが、この困難な時代を乗り越えて、子どもたちに、未来につないでいかなければなりません。



横浜は、全ての人の「明日をひらく都市」であり続けたい。様々な困難を抱えていても、その人が望む道を選択し、みんなで応援する都市。多種多様な人の才能、その人らしい可能性をひらく都市。たくさんの人が集い、明日を感じ、語りあえる都市。多くの様々な企業が集まり、つながり、新しい価値を生み出しつづける都市。自然や文化をはじめとした、豊かなまちの魅力をひらく都市。横浜が持続可能であることはもちろん、地球における持続可能性をひらく都市。



横浜に関わる、全ての人が前を向き、希望にみちあふれた毎日を送れる、世界のどこにもない都市を共に作りましょう。明日に向けた一人ひとりの行動が、新しい横浜をつくっていきます。



共にめざす都市像とは？

共にめざす都市像とは、現在及び未来の横浜をとりまく環境を、統計データや有識者等の知見を踏まえて策定した、「2040年頃の横浜のありたい姿」です。

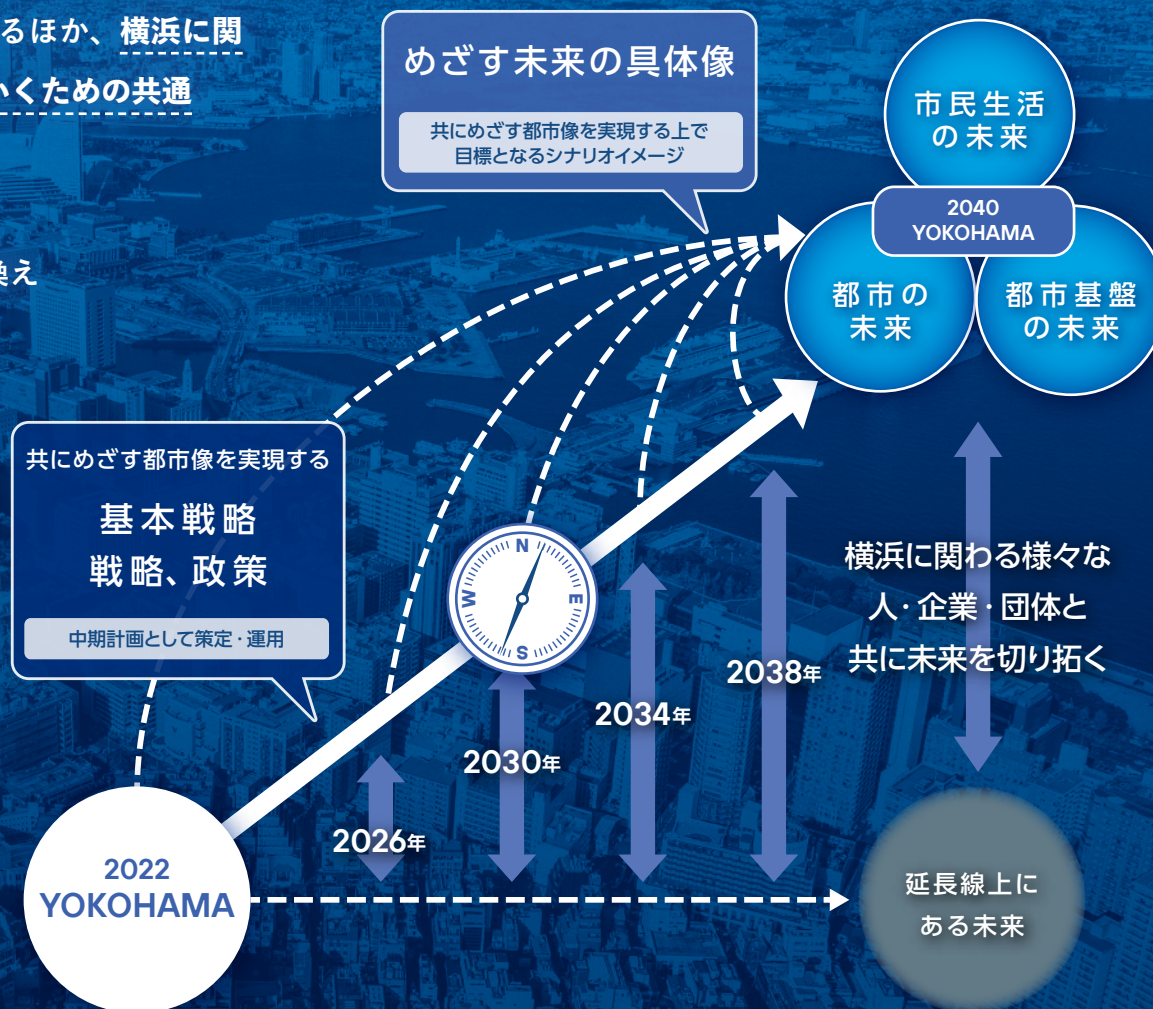
4か年ごとに策定される中期計画の指針として活用するほか、横浜に関わる多様な人・企業・団体が、共に未来を切り拓いていくための共通認識として発信・活用していきます。

市民の皆様が、2040年頃のありたい姿を自らに置き換えて、様々な暮らしのイメージができるように、また、そこに向けて自らも行動できるように、めざす未来の具体像を併せて示しています。

市民の皆様がやりたいと考える姿は、お一人おひとりの価値観や生活環境などにより様々なので、皆様が考える2040年頃の姿をイメージして、共に行動するヒントになれば幸いです。

共にめざす都市像

未来の横浜のありたい姿を規定した基本的方向性



II 共にめざす都市像（めざす未来の具体像）

市民生活 の未来

暮らしやすく誰もが WELL-BEING[※]を実現できるまち

社会や時代の変化に適応しながら、あらゆる世代・多様な市民の皆様、一人ひとりが自分らしく活躍でき、いきいきと安心して暮らすことのできる、そのような市民生活の実現を目指します。

都市 の未来

人や企業が集い、つながり、 新しい価値を生み出し続けるまち

これまでの歴史の中で、受け継いだ様々な価値と、新たに生み出す価値を織り交ぜながら、常に変化し、独自の魅力を発信し続け、人と企業が集う都市を目指します。

都市基盤 の未来

変化する時代・社会に適応し、市民生活や 都市を支える新しい在り方を実現し続けるまち

交通インフラ、脱炭素、環境保全、災害対策など、横浜での暮らしや様々な活動を支え、持続可能な都市として発展・進化し続けるための強い基盤づくりを目指します。

※ WELL-BEING：幸福で肉体的、精神的、社会的全てにおいて満たされた状態のこと。



中期計画の全体像

共にめざす都市像

「明日をひらく都市 OPEN×PIONEER 2040 YOKOHAMA」に向けて

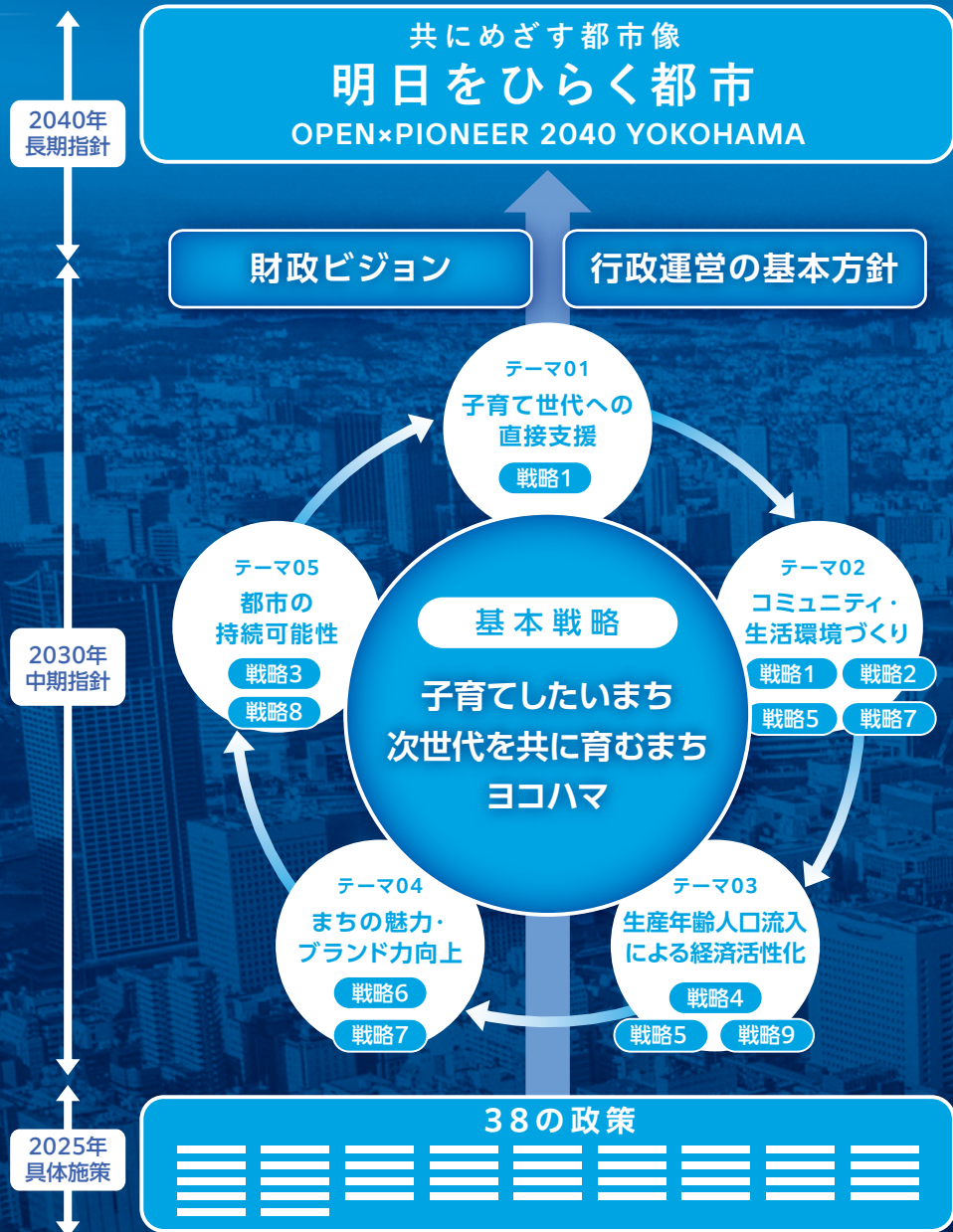
「明日をひらく都市」を実現していくためには、明日をひらく都市を「共にめざす」仲間を増やす必要があります。

仲間とは、現在の横浜を支えてくださっている方々はもちろんのこと、今後横浜市民になっていただく方、横浜で生まれる方、横浜で働く方です。

仲間を増やすために、「横浜で子育てしたい」と思っただけのような、あらゆる策を講じる必要があります。

計画では、「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を「基本戦略」に掲げて、「住みたい都市」「住み続けたい都市」「選ばれる都市」となり、「明日をひらく都市を共にめざす仲間」を増やしていきます。子育て世代を支援し、仲間を増やしていきながら、高齢者を支えていく等の好循環を創出していきます。

また、「財政ビジョン」で掲げた「必要な施策の推進と財政の健全性の維持」を実現していくためには、政策の優先順位付けも必須です。そのため、「基本戦略」への貢献度が高い策を優先して実行していくことと、「行政運営の基本方針」を踏まえた行政サービスの最適化（事業手法の創造・転換）をセットで進め、将来の横浜市民を支える財源もしっかり確保していきます。



参考 基本戦略・戦略の構造

誰もが安心して
出産や育児ができるまち

戦略 1

すべての子どもたちの
未来を創るまちづくり

テーマ01
子育て世代への
直接支援

未来を育むつながり・
自然・文化・学びに溢れるまち

戦略 1

すべての子どもたちの
未来を創るまちづくり

戦略 2

誰もがいきいきと
生涯活躍できるまちづくり

戦略 5

新たな価値を創造し続ける
郊外部のまちづくり

戦略 7

花・緑・農・水の豊かな魅力あふれる
ガーデンシティ横浜の実現

テーマ02
コミュニティ・
生活環境づくり

住居・交通・仕事において
便利で選ばれるまち

戦略 4

未来を切り拓く経済成長と
国際都市・横浜の実現

戦略 5

新たな価値を創造し続ける
郊外部のまちづくり

戦略 9

市民生活と経済活動を
支える都市づくり

基本戦略

子育てしたいまち
次世代を共に育むまち
ヨコハマ

テーマ05
都市の
持続可能性

将来の世代にわたり
安全・安心に暮らせるまち

戦略 3

Zero Carbon Yokohama
の実現

戦略 8

災害に強い安全・安心な
都市づくり

テーマ04
まちの魅力・
ブランド力向上

いつまでも愛着をもって
過ごせる魅力的なまち

戦略 6

成長と活力を生み出す
都心・臨海部のまちづくり

戦略 7

花・緑・農・水の豊かな魅力あふれる
ガーデンシティ横浜の実現

テーマ03
生産年齢人口流入
による経済活性化

子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ

2040年頃の共にめざす都市像「明日をひらく都市」を実現するためにも、
未来の横浜を担う次世代を育むまちであることが不可欠です。

横浜市では基本戦略として「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を掲げ、
横浜に関わる様々な人・団体の皆様と共に、横浜の受け継ぐ多様な魅力を更に高め、「住みたい都市」
「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指し、市民生活の質と都市の活力の向上の好循環へつなげていきます。

施策例（抜粋）



テーマ01 子育て世代への直接支援

誰もが安心して出産や育児ができるまち

戦略1

- 出産費用、小児医療費等経済的負担の軽減
- 保育所、放課後キッズクラブ等安心して預けられる場の提供
- 相談体制の充実や地域での子育て支援
- 困難な状況にある子ども・家庭の支援
- すべての生徒が満足できる中学校給食の実現
- 個性や多様性を大切にする教育の推進



テーマ02 コミュニティ・生活環境づくり

未来を育むつながり・自然・文化・学びに溢れるまち

戦略1

戦略2

戦略5

戦略7

- 子育て世帯にも居心地の良い図書館づくり
- 自治会町内会等の支援
- 地域活動に参加しやすい風土づくり
- いざというときに困らない医療体制の確保
- 空き家を活用した子育て世帯向け住宅の提供
- 通学路の安全確保（歩行者空間の確保とブロック塀の改善）
- 子どもがスポーツに親しむ環境づくり
- 子どもを育む花と緑の空間づくり
- 子どもの農体験等による土に触れる機会の提供



テーマ03 生産年齢人口流入による経済活性化

住居・交通・仕事において便利で選ばれるまち

戦略4

戦略5

戦略9

- 生活圏内での移動利便性の向上
- 魅力的な商業施設やイベント関連施設の整備
- 郊外部駅周辺や都心部の再開発による利便性の高い住宅の供給
- 郊外部住宅地における店舗等生活サービスの充実
- 職住近接を実現する郊外部での働く場の確保
- 大規模団地の再生・魅力向上
- 生活や経済を支える交通ネットワーク
- スタートアップ支援
- 規制緩和による戦略的な土地利用
- 中小・小規模事業者への支援
- 商店街の活性化



テーマ04 まちの魅力・ブランド力向上

いつまでも愛着を持って過ごせる魅力的なまち

戦略6

戦略7

- 都市デザインの展開による魅力ある都市景観の形成
- 身近な緑地の保全
- 3動物園の特徴を生かした憩い・癒しの場の創出
- ガーデンシティ横浜の更なる推進



テーマ05 都市の持続可能性

将来の世代にわたり安全・安心に暮らせるまち

戦略3

戦略8

- ゼロカーボンシティの推進
- 大規模地震への対策
- 風水害に強い都市づくり
- 災害から命を守るための地域防災力の向上

IV 基本姿勢

「共にめざす都市像」の実現に向け、複雑化・多様化する社会課題や市民ニーズに対応した取組を推進していくために、次の点を重視していきます。



SDGsの実現の視点



地域コミュニティ強化の視点



DXの推進とデータ活用・オープンイノベーションの推進の視点



協働・共創の視点



脱炭素社会実現の視点

V 9つの戦略及び38の政策

10年程度の中長期的な戦略を定めるとともに、戦略を踏まえて計画期間の4年間に重点的に取り組む38の政策をとりまとめています。

戦 略	政 策
戦略 1 すべての子どもたちの未来を創るまちづくり	政策 1 切れ目なく力強い子育て支援 ~妊娠・出産期・乳幼児期~
	政策 2 切れ目なく力強い子育て支援 ~乳幼児期・学齢期~
	政策 3 困難な状況にある子ども・家庭への支援
	政策 4 児童虐待・DVの防止と社会的養護の充実
	政策 5 子ども一人ひとりを大切にした教育の推進
	政策 6 豊かな学びの実現
戦略 2 誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくり	政策 7 市民の健康づくりと安心確保
	政策 8 スポーツ環境の充実
	政策 9 地域コミュニティの活性化
	政策 10 地域の支えあいの推進
	政策 11 多文化共生の推進
	政策 12 ジェンダー平等の推進
	政策 13 障害児・者の支援
	政策 14 暮らしと自立の支援
	政策 15 高齢者を支える地域包括ケアの推進
	政策 16 在宅医療や介護の推進
	政策 17 医療提供体制の充実
戦略 3 Zero Carbon Yokohamaの実現	政策 18 脱炭素社会の推進
	政策 19 持続可能な資源循環の推進

戦 略

政 策

戦略 4

未来を切り拓く経済成長と国際都市・横浜の実現

- 政策20 中小・小規模事業者の経営基盤強化
- 政策21 スタートアップの創出・イノベーションの推進
- 政策22 観光・MICEの振興
- 政策23 市内大学と連携した地域づくり
- 政策24 国際ビジネス支援と地球規模課題解決への貢献
- 政策25 世界から集いつながる国際都市の実現

戦略 5

新たな価値を創造し続ける郊外部のまちづくり

- 政策26 人を惹きつける郊外部のまちづくり
- 政策27 豊かで暮らしやすい住まい・環境づくり
- 政策28 日常生活を支える地域交通の実現

戦略 6

成長と活力を生み出す都心・臨海部のまちづくり

- 政策29 活力ある都心部・臨海部のまちづくり
- 政策30 市民に身近な文化芸術創造都市の推進

戦略 7

花・緑・農・水の豊かな魅力あふれる
ガーデンシティ横浜の実現

- 政策31 自然豊かな都市環境の充実
- 政策32 活力ある都市農業の展開

戦略 8

災害に強い安全・安心な都市づくり

- 政策33 地震に強い都市づくり
- 政策34 風水害に強い都市づくり
- 政策35 地域で支える防災まちづくり

戦略 9

市民生活と経済活動を支える都市づくり

- 政策36 交通ネットワークの充実
- 政策37 国際競争力のある総合港湾づくり
- 政策38 公共施設の計画的・効果的な保全更新

VI 行財政運営

政策を進めるに当たっての土台となる取組です。それぞれ、目標、指標、現状と課題、主な取組を記載しています。

行財政運営 一覧

行政運営

1-(1)

組織の最適化と職員の能力・役割発揮の最大化
時代に即した組織体制の構築と人事給与制度の
推進

1-(2)

組織の最適化と職員の能力・役割発揮の最大化
チーム力向上に向けた人材育成と働きやすい職場
環境づくり

2-(1)

行政サービスの最適化 ~事業手法の創造・転換~
新たな価値やサービスを生み出すDXの推進

2-(2)

行政サービスの最適化 ~事業手法の創造・転換~
市民ニーズに応える持続的な行政運営の推進

3

住民自治の充実と協働・共創による地域の更なる
活性化

財政運営

1

債務管理ガバナンスの徹底による中長期的な視点
に立った債務管理

2

戦略的・総合的な取組による財源の安定的・構造
的な充実

3

資産の総合的なマネジメント（ファシリティマネ
ジメント）の推進

4

歳出ガバナンスの強化による効率的で効果的な予
算編成・執行

5

市民の共感を生み出す情報発信と課題提起

VII 大都市制度

本市では、急速に進むと予測される人口減少・超高齢社会など、多くの課題に対応し、市民の暮らしをしっかりと支え、また、経済を活性化させて大都市としての力を最大限に発揮していくために、新たな大都市制度「特別市」の早期実現に向けて取り組んでいます。

VIII DXの推進

DXにより新たな価値・サービスを生み出すことも重視していくことで、多くの市民・事業者の皆様に、デジタル技術による利便性の向上などの変革の価値を実感し、満足度を高めていただきながら、各戦略・政策で掲げる目標を、より効果的・効率的に達成していくことを目指します。

計画の策定経過

横浜市中期計画 2022~2025の策定経過

◎2022年（令和4年）5月31日

「新たな中期計画の基本的方向」公表

広報よこはま
7月号

- 市民アンケート（6月10日～7月8日）
→3,888人から回答
- 市民意見募集（5月31日～7月15日）
→410人・団体から意見提出
※市民アンケート、市民意見募集でいただいた御意見については、ホームページに掲載しています。
- 有識者ヒアリング

◎2022年（令和4年）8月30日 素案の公表

広報よこはま
特別号

- 令和4年第3回市会定例会で素案の報告
- パブリックコメント（9月15日～10月14日）
→1,979人・団体から意見提出
※パブリックコメントでいただいた御意見については、ホームページに掲載しています。
- 有識者ヒアリング

◎2022年（令和4年）11月29日 原案の公表

- 令和4年第4回市会定例会に議案提出・審査
基本計画特別委員会において採決
市会本会議において議決
※附帯意見が付されて可決されました。

◎2022年（令和4年）12月23日 確定

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

令和4年12月
横浜市政策局政策課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
電話：045-671-2010 FAX：045-663-4613

